

全校のみなさん、おはようございます。

一昨日からの三日間、一日体験入学が行われています。高校生の皆さんは普段通りの学校生活をおくりながら、中学生をしっかりと迎えましょう。中学生の皆さんは、高校生の姿を通して高校生活をイメージしていただけだと思います。

さて、皆さんがお聞きになっているこの放送は「朝の法話」といいます。瞑想の姿勢で、心を落ち着けて、聞こえてくる法話の言葉に耳を傾けてください。

皆さんは、昔話の「ウサギとカメ」という話を知っていますか？ウサギとカメが丘の上に立てられた旗を目指して競争し、途中でウサギが道草をしたり、昼寝をしたりしているうちに、カメがウサギに勝ったという話です。この「ウサギとカメ」の話は、たゆみなき努力の大切さを教え、そして、それが最後には勝者となることを教訓とするものでしょう。

この話がある先生は、「ウサギがカメに負けたのはなぜか。それは、ウサギはカメを見たからである。カメは丘の上の旗だけを見たように、自分の目標にむかってひた向きに歩いていく。カメにとってはウサギに勝つことよりも、自分のできることをやることの方が尊かったのではないかと思う」とお話されました。

一方で、このお話を外国の人に聞かせると、異なった反応がかえってくると言います。それはカメの行為についてで、なぜカメは寝ているウサギの横を素通りしたのか、そこが腑に落ちないようです。カメはウサギの病気や怪我を疑わなかったのか。また、寝たままのウサギに勝利して満足なのか等、色々な意見が出たと言います。

また、ウサギのように、丘の上に立てられた旗をめがけて、ひたすら走るのではなく、道ばたに美しい花があればそれを愛で、泉があればそのほとりを散策するなど好奇心いっぱいに行動する。それもまた良いものではないかという意見もありました。

一つの話でもいろんな見方があるように、私たち人間は、生まれ育った環境や境遇や考えが異なります。それがその人の「モノサシ」となり、様々なことを認識しています。

私たちが人生の中で、いろいろな苦しみや悩みに出あった時、ものの見方を変えることによって、見えなかったものが見えたり、気づかなかったことに気づかされたりすることがあります。そうやって自分の「モノサシ」が問い返されることによって、新たな世界がひらかれてくるかもしれません。